

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要を理解する。言葉を獲得し思いを伝え合うようになるための環境や遊び、指導援助の方法について学ぶ。発達を理解し生活の流れに即した教材選定力や保育指導案の作成力と実践力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

乳幼児の言葉の発達を詳説し、視聴覚教材を活用して、さらにイメージを確かなものにする。そして、言葉の育ちを促す絵本やお話の教材研究や、保育指導案作成と模擬保育を行う。また、発達に即した教材制作を通して言語環境を整え、乳幼児の豊かな言葉と言語活動を育む保育を学ぶ。

授業計画

1. 領域「言葉」について
2. 乳幼児の言葉の育ちを支える要因
3. 乳児期の発達と言葉の獲得
4. 乳児期の言葉の発達を促す保育と教材
5. 満1歳以上満3歳未満児の発達と言葉の獲得
6. 満1歳以上満3歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
7. 満3歳以上の幼児の発達と言葉の獲得
8. 満3歳以上の幼児の言葉の発達を促す保育と教材
9. 言葉の獲得において特別な支援を要する乳幼児への保育
10. 豊かな言葉を育む児童文化(歌、手遊び、言葉遊び)(情報機器及び教材の活用を含む)
11. 豊かな言葉を育む児童文化(絵本や紙芝居)
12. 豊かな言葉を育む児童文化(人形劇やペープサート、パネルシアターやエプロンシアター等)
13. 伝え合い分かり合う楽しい劇遊び(情報機器及び教材の活用を含む)
14. 模擬保育と振り返り
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、言葉をはぐくむ保育実践についての発表を加える。また、教材を制作し教育実習や保育実践にいかす。知識の定着

を図るため、小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ① 絵本データシートや、自修シートの提出を2回、模擬保育(教材の作成を含む)を課題とする。講義の中でフィードバックを行う。
- ② 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

岸井勇雄・無藤隆、湯川秀樹[監修]太田光洋[編著]『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 第三版』2018年(株)同文書院

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

保育の基礎技術を高めるため、わらべ歌や言葉遊び、絵本、幼児用テレビ番組などに日頃から親しんでおくこと。地域の図書館での企画展示やおはなし会などに関心をもつこと。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護			17638	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	2	重症心身障害児施設職員			

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実践を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法

その他

欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 聖 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているため、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護 I			17639	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	2	重症心身障害児施設職員			

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティの(S奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実践を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法

その他

欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 壘 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているため、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 I A			17642	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
籾内 順子	選択	2	看護師、看護教員			

授業の到達目標

保育現場では疾病や障害を抱えた多様な子どもも入所しており、子どもの保健・安全の領域が重視されている。心身の健やかな成長を見守り援助していくために、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得することが大切である。さらに、子どもを取り巻く家庭や社会環境などにも目を向け総合的に判断し、対応できる力量を形成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

授業の概要

命の誕生から身体の発育・生理機能・運動機能・精神機能についての知識を習得し、子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また、子どもの疾病の特徴を知り、その予防とその対応について学ぶ。さらに子どもの心の健康とその課題について家庭・専門機関・地域との連携についても学ぶ。

授業計画

1. 子どもの健康と保育の意義①生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2. こどもの健康と保育の意義②子どもの健康概念と健康指標
3. こどもの健康と保育の意義③地域における保健活動と児童虐待
4. 子どもの発育・発達①生物としてのヒトの成り立ち
5. 子どもの発育・発達②身体発育
6. 子どもの発育・発達③生理機能の発達
7. 子どもの発育・発達④生理機能の発達
8. 子どもの発育・発達⑤運動機能の発達
9. 子どもの発育・発達⑥運動機能の発達
10. 子どもの発育・発達⑦精神機能の発達
11. 子どもの発育・発達⑧精神機能の発達
12. 子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健
13. 子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題
14. 環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
15. 環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理
まとめ
終講試験

授業の方法

主に講義形式で進める。ディスカッションやグループワークや発表も取り入れる。視聴覚教材等も使用する。

準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心をもつ。感染症の発症や流行に関する情報を身近なこととして捉える。事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

レポート等の提出期限を守らない場合は減点対象とする。また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

欠席について

欠席は減点対象とする。1回欠席につき2点減点とする。

テキスト

子どもの保健 I 佐藤益子編著ななみ書房

参考図書

国民衛生の動向(財)厚生統計編

留意事項

レポートの提出について未提出の場合は加点0点。グループワークや発表への取り組み姿勢も評価対象とする。欠席は1回につき2点減点とする。

教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護内容			17766	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	重症心身障害児施設職員			

授業の到達目標
 現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育・保護していく機能は脆弱化している。「家庭養護」だけでは子どもの養育が困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護の本質と機能を理解し、施設養護の内容と実際、養護施設における援助技術について、実践的活動事例を通して施設養護観を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指す。

授業の概要
 児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親制度についての現状と今後の展望についても理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション 児童の社会的養護の理念と概念
2. 施設における子どもの社会的養護 施設養護の特質と機能、虐待児への対応
3. 施設における子どもの社会的養護 施設養護の流れ、入所前後・退所前後のケア
4. 社会的養護における支援の計画と内容 個別支援計画作成の留意点と作成事例
5. 虐待問題と児童養護 増加する児童虐待の要因と課題
6. 社会的養護の実際 学校教育や地域社会との連携、自立支援
7. 里親制度と課題 日本と海外の相違、保育士としての役割
8. 障害児、その保護者への支援 事例からの考察、まとめ

授業の方法
 VTR、DVDなどの事例を多く取り上げて、双方向の授業とする。積極的な参加を求める。また、指定教科書はないが、ノートはしっかり取ること。

準備学修
 児童虐待、障害児などの社会問題に対して、関心を深めておくこと。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 理由のある公欠以外は、認めない。

テキスト
 『保育の質を高める相談援助・相談支援』見洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 壱 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項
 将来、児童養護等社会福祉施設関係での就職を希望する人は、ぜひ受講すること。「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
相談援助			17770	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	障害児者相談支援専門員			

授業の到達目標
 授業を通して、ソーシャルワークの歴史、また個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントを中心とした直接援助技術および間接援助技術の理論と実践方法を学び、アセスメント・計画策定実施・評価までの援助過程を展開できる基礎知識・技術を習得することを旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指す。

授業の概要
 少子化や核家族化が進行するなど子ども・家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てにかかわるニーズは多様かつ複雑化している。このような社会的変化を背景に、保育士には、子どもへの保育に加えて、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を用いながら相談援助を展開していくソーシャルワーカーとしての役割が期待されている。

本科目は「保育相談支援」と相互関連科目であり、相談援助を展開する際に必要となる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法を身につけることを目的としている。

授業計画

1. 社会福祉援助技術の体系と歴史
2. 人間関係と自己理解 ①
3. 人間関係と自己理解 ②
4. 社会福祉専門職の価値・倫理 ①
5. 社会福祉専門職の価値・倫理 ②
6. 事例研究 ①
7. 事例研究 ②
8. まとめ

授業の方法
 VTR、DVD等で現状の社会福祉場面を理解し、専門職の役割とその意義について理解する。

準備学修
 子どもに関わる日常の社会的事例について、関心を深めること。

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 公欠以外は認めない。

テキスト
 『保育の質を高める相談援助・相談支援』見洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 壱 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項
 対人援助技術は、これからの保育士には必要なものである。関心を深めること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育相談支援			17772	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	障害児者相談支援専門員			

授業の到達目標

本科目では、子どもの最善の利益に焦点をあてながら保育相談支援の基本となる「価値と倫理」について理解した上で、事例検討を通して保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実際について学んでいく。本科目を通して、子どもや保護者を取り巻く環境（社会的側面）へのアプローチも含めた多角的視野から根拠（evidence）に基づいた保育相談支援を展開していく能力の習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

「相談援助」で取り上げる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法をふまえた上で、保育所等児童福祉施設における保育相談支援について理解し、多岐にわたる生活問題を抱えた児童や保護者に対して多角的・総合的な支援を展開できる力を身につけることを目的としている。また、社会福祉専門職である保育士として求められる相談支援場面に必要な知識と技術についても理解する。

授業計画

1. オリエンテーション
コミュニケーション技法 ①
2. ケースワーク、グループワークの理解
3. 面接技法 ①
4. 面接技法 ②
5. コミュニティーワーク
6. 事例研究 ①
7. 事例研究 ②
8. まとめ

授業の方法

VTR、DVD等で現状の保育相談支援場面について、理解を深める。また、双方向の授業であるから、積極的な参加を求める。

準備学修

日常から子どもに関わることに関心を持つこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

公欠以外は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 瑩 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

保育士に求められる対人援助技術の意義について、しっかり考える機会とすること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家庭支援論			17774	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族の機能、家庭の意義と役割を理解する。子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制を理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともに、K（思いやり）を考える。

授業の概要

まず「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義や役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

授業計画

1. 家庭の意義と役割
2. 家庭支援の必要性と保育士等が行う家庭支援の原理
3. 現代の家庭における人間関係
4. 地域社会の変容と家庭支援
5. 男女共同参画社会とワークライフバランス
6. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策
8. 子育て支援サービスの概要
9. 保育所入所児童の家庭への支援
10. 地域の子育て家庭への支援
11. 要保護児童及びその家庭に対する支援
12. 子育て支援における関連機関との連携
13. 諸外国における子育て支援
14. 子育て支援サービスの課題
15. まとめ

授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。60時間。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

小田豊ほか『家庭支援論』北大路書房

参考図書

内閣府『少子化社会対策白書』
授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。